

幼少期の親の養育態度が大学生の自己効力感に与える影響について

A43160 永澤 亮子

自己効力感とは「自分がある具体的な状況において、ある結果を生み出すように要求された行為をどの程度、成功裏に遂行できるかという個人の予測及び確信の程度である」(バンデューラ,1985)。

家庭環境、つまり親の養育態度は子どもの自己効力感に影響を与えられ、またその養育態度によって、個人の性格へも影響を及ぼし、性格も自己効力感にも影響を及ぼすと考えられる。

目的

- ① 親の養育態度は自己効力感にも影響を及ぼしているのではないかと検討する。
- ② 幼少期の養育態度によって、性格にもどのような影響があるか検討する。
- ③ 幼少期の養育態度が自己効力感にも違いが見られるのではないかと考えた。

方法

特性的自己効力感尺度(成田ら,1995)、Big five、子どもの認知する親の養育態度尺度(養・酒井,2006)を用いて質問項目を作成し、調査用紙で回答を求めた。500人を対象に調査を行った。分析にはSASを利用した。

結果

- ①自己効力感と性格5因子を相関分析した結果、男女共に相関が見られた。
- ②各性格5因子を従属変数、親の養育態度を独立変数として重回帰分析で行った。
女性の場合、受容的養育態度は外向性、開放性、調和性因子に優位な差が見られ、統制的養育態度は外向性、開放性因子に優位な差が見られた。
男性の場合、受容的養育態度は調和性因子、統制的養育態度は情緒不安定性因子に優位な差が見られた。
- ③自己効力感を従属変数、親の養育態度2因子を独立変数として重回帰分析を行った結果、男女共に優位な差は見られなかった。

考察

- ①男女共に人と話すのが好きであったり、社交的であったり、またしっかり自分というものを持っている人は、困難にあたった時でも物事が成功すると思えば努力する事ができると考えられる。これらの事から、物事をプラスに考えられる人ほど自己効力感が高いという事がわかった。
- ②女性の場合に関しては受容的養育態度で育てられた人も統制的養育態度で育てられた人も、話し好きで明るく、好奇心が強い人が多いと考えられる。また受容的養育態度で育てられた人はまた、温和で協力的で、素直な人も多いと考えられる。
男性の場合に関しては、受容的養育態度で育てられた人は温和で、協力的で、素直だと感じる人が多く、統制的養育態度で育てられた人は、心配性であったり、神経質でよくよする事がある人が多いと考えられる。
- ③幼少期の親の養育態度、受容的養育態度と統制的養育態度は現在の大学生の自己効力感に直接的に影響を与えていないということがわかった。しかし、幼少期の親の養育態度は子ども自身の性格形成に影響を及ぼしている事がわかった。このことより、直接的ではないが親の養育態度は大学生の自己効力感に影響を与えているのではないだろうか。